

L o v e l y W i n d

あいのかぜ

VOL. 10

2000・秋号
富山市女性情報交流誌



●特集

21世紀の家族

～これからのライフスタイル～

家庭はあなたにとって安心できる場所ですか？

～女性への暴力のない家庭を～

家事も育児も

二十一世紀の家族

これからのライフスタイル

青年海外協力隊で同期だったお2人は、派遣前の国内研修で知り合い、それぞれ教師としてガーナの学校へ。帰国後、約3年を経て結婚。裕子さんは、戸籍上の定村姓より旧姓の朝比奈姓の方が公私両面において都合が良いので、通称として用いらっしやいます。

昨年5月に第1子環ちゃんが誕生。まず裕子さんが半年、ついで誠さんが半年の育児休業を取られました。

現在は、環ちゃんを保育園に預け、お互いに助け合って子育てをしていらっしやいます。そんなお2人にお話をうかがいました。

誠さんの育児休業は、どちらから提案されたのですか？

誠 どちらが提案したか覚えていませんが、決めたのは子どもができるずっと前、5、6年前位だったと思います。彼女が仕事を続けたいんだったら僕も取ればいいんじゃないかな、最初はそういう感じでしたね。

裕子 育児休業を取れる期間は1年以内だから「じゃ、2人で半年ずつ取ろうか」って感じで。自分は自営業なので、仕事をしなければ無給になってしまうんですけど。(笑)

男性が育児休業を取るのには、ご苦労があったのでは？

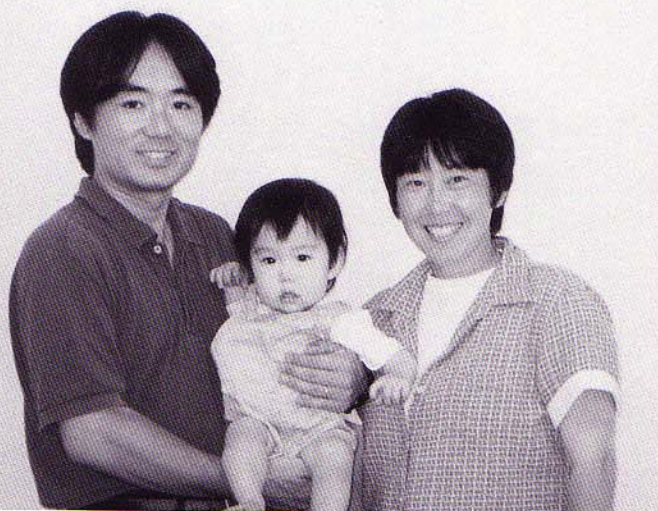
誠 勤務先の学校では産休等を取る教員が多いので、環境としては取りやすい方だと思いますね。ただ、男の自分が育児休業を取るって言うと、特に年配の男性からは“えっ!?”って受け止められた感じもしましたけど。

お子さんが生まれる前は、家事など協力されていましたか？

裕子 子どもが生まれる前も、ふつうに料理、掃除、洗濯など家事は手の空いてる方がやりましたね。どっちかが疲れていたら元気な方がやるっていうふうにも、2人で楽しくお酒を飲みながら話をするためにも、家事は協力してとっとと終わらせるようにしてきました。言ってみれば、効率よく共同作業してるってことですね。

そういう意味では、自然に子育ても一緒にできたんだと思います。

2人でいると、男とか女とかってあまり意識したことはないんですよ。ただ相手を思いやる気持ちを大切にしているだけです。

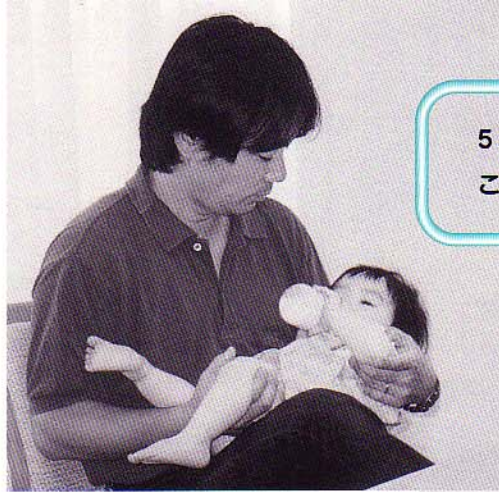


最も身近で、最も基本的な「社会」である家庭。あなたの家庭はいかがですか？

様々な家庭生活が営まれている中で、三組のご家族にお話を伺いました。身近な男女共同参画について、

一緒に考えてみませんか？

二人三脚



5年に1度はガーナに行く！
これが家訓です。



定村 誠(39歳) 地方公務員(教員) 富山県出身
朝比奈裕子(37歳) 自営業(鳥類調査) 東京都出身
定村 環(1歳4ヶ月)

誠さんは、どんなふうに育児に参加されていますか？

誠 彼女は仕事柄出張が多いので、何でもしていますよ。布のおむつ替えにも抵抗はありませんし、もちろんミルクも作って飲ませます。離乳食も作りますよ。僕の育児休業中にちょうど離乳期を迎えたので。(笑)

裕子 彼には学生時代から自炊してきた経験もあるんです。また、男でも女でも自分の身の回りのことができないようでは自立したとは言えないと思います。これは生き物としての基本だと思います。

ガーナに行って、日本よりかなり不便な環境の中で「自分の事は全部自分でしなくちゃいけない」ということを経験しました。夫とは、そこでの体験を共有していることの意味が大きいですね。

まあ、親友が男女だったから結婚しちゃったみたいな感じなんですよ。(笑)

育児休業中に苦労された事は？

誠 そのころは環があまり病気をしなくて助かりましたね。僕としては仕事しないで子どもの面倒をみてあげたいだけでした。子どもを保育園に預けて働いている今の方が大変ですね。

環ちゃんは、1歳になって保育園へ。

送り迎えは主に誠さんがしていらっしゃるようですが、現在のご苦労は？

裕子 子どもが突然熱を出しても、私は仕事柄、山の中にいることが多いんです。保育園から迎えに来て欲しいという連絡がくると、彼が迎えに行かなくちゃいけない、彼に負担がかかってますね。ちょっと考えなくては・・・と思っています。

裕子さんから見たガーナの夫婦は？

裕子 ガーナにも、女性が主に家事をするという性別役割分業意識はありますが、女性もきちんと意見を言える強さをもっています。仕事を持って自立している女性も多いですね。またガーナの子どもは家の手伝いをよくするので、男女とも一通りの事はできるようになります。

それにガーナでは親戚やまわりの人による相互扶助ができていて、みんな助けあっています。日本も昔はそうだったらしいですけど・・・。

これから子育てしようとする人や子育て中の夫婦にメッセージを・・・

裕子 子どもは女の人が育てなければいけないとか、固定観念にとらわれるんじゃなくて、夫婦がお互いの選択の幅の広さとか、多様で柔軟な考え方を大切にする必要があると思うんですね。2人の子どもなんだし。

誠 話し合いのできる雰囲気があって、話し合ってお互いに納得のできる線をきちっと決められればいいんじゃないかな。

裕子 男だから女だからとか、とらわれた考え方で、どっちかがひどく我慢するとかじゃなくてね。

お互い納得できるまで話し合っ、自分たちなりに家事に育児にと共同参画しているお2人。

「とことん話し合うので、私はけっこう感情的になりやすいんですけど、夫が冷静に分析してて、最終的にはうまく合意がとれています。そういう意味ではいい相手だったかなと思います。どっちかが相手を押え込もうとすることは、人間関係を壊すと思うんです。」と裕子さんは語ってくださいました。



高瀬オクサーナ(27歳) 大学・高校講師 ロシア出身
 高瀬 長作 (30歳) 会社員 富山県出身
 高瀬 伊音(1歳11ヶ月)
 高瀬 喜志子 (57歳) 会社員 富山県出身

家族みんな
 までリレー
 で子育て

家族みんなの協力関係は？

現在、夫は平日が休みなので、それに合わせて私の仕事のスケジュールを調整し、交替で息子の面倒をみています。2人の休みがどうしても合わない時は、お義母さんが会社を休むか、友達に頼むかします。家事については、朝はお義母さんで、それ以外はだいたい私。でも、子育てを口実に田んぼや畑の手伝いはしてません。(笑) 夫も時間があれば家事も育児もすすんでしてくれますよ。何でも。

夫の尊敬できる点は？

全部。(笑) しかも、どんどん良くなる。結婚してから相手の悪いところが目立つようになるとよく言いますが、それはいいですね。私の「先生」という感じ。翻訳の仕事をする時も、日本語の分からないところを誰よりもよく説明してくれるし、困っている事や悩み事も、彼に相談するとすごくラクになる。きちんと聞いてくれる分、もしかすると彼には重いのかもしれないけれど。

伊音君を連れてよくお散歩をするので、少し遠くの方たちとも顔なじみ、というオクサーナさん。地域行事にも積極的に参加しているそうです。

長作さんは彼女を「さりげないがんばり屋さん」と評し、喜志子さんは「みんな素直でラクなが。」と笑顔で答えてくださいました。

まさに「自然体」という言葉がピッタリの、温かいご家族でした。



共通の友人を通じて知り合い、3年前に結婚したお2人。

相手の価値観を素直に受け止め、どんなことでも必ず相談し合っている、という仲良しファミリーにお会いし、家庭内での協力についてオクサーナさんに語っていただきました。

結婚を決めた時のロシアのご実家の反応は？

私が日本に留学する時から、母は「自分の人生なのだから思うとおりにするといい」と言ってくれています。結婚の時も同じでした。ひとりっ子ですが、とくに反対されませんでした。

ロシアとの違いに、戸惑いや苦労は？

「郷に入れば郷に従え」です。(笑) その土地にはその土地のルールのようなものがありますし、それまでの自分の習慣や考え方だけでは生活できません。「違い」を当たり前として、そのまま受け止めています。ただ、私の場合はそれを苦労と思ったことがないので、今の生活がすごく自分に合っているのだと思います。

苦労といえば、入籍の手続きくらいかな。必要書類を揃えるために時間も手間もかかり、大変でした。

今年1月に市内在住の男女2000人(満20歳以上79歳以下)を対象に「富山市男女共同参画に関する意識調査」が実施されました。ここにあげた資料は、その報告書から抜粋したものです。

育児休業、介護休業、看護休暇が男女とも取りやすいように制度を改善する
 女性 60.8% 男性 59.2%

保育所を充実し、利用しやすくする
 女性 60.5% 男性 64.5%

育児休業が職場復帰のハンデにならないような支援体制を確立
 女性 41.8% 男性 45.0%

子育ては母親の役目(責任)という考え方を変えていく
 女性 34.4% 男性 24.5%



●「女性が結婚・出産後も働きつづける事ができる社会となるにはどんなことが必要か?(複数回答)」—男女ともに上位5位になった項目を抜粋—



中林 晶子 (28歳) 団体職員 東京都出身
中林 靖貴 (29歳) 地方公務員 富山県出身

富山市女性交流センターで講座の企画や運営などをされている晶子さんに、家庭での男女共同参画についてお聞きしました。

お2人の協力関係は？

たとえば、夕食は一緒にいるときは2人で作ります。私は夜間勤務もありますので、どちらかが遅いときは先に帰った方が作ります。

それについての話し合いは？

センターで働くようになって半年ぐらいは、仕事で啓発していることと、自分自身の生活とが矛盾していたのでとても辛かったです。

でも、男女共同参画についてなんども話し合った結果、夫も自主的に家事を分担するようになりました。

ただ、実際に家事は分担するようになったものの、周囲から「夫に家事をさせてかわいそう」などと言われることもしばしばあり、私の心の中には「夫に家事をやらせている」といった負い目がありました。でもある時期からふっと楽になったんです。

きっかけは？

先日、男女共同参画講座の講師にそのことを話したところ「あなたと結婚したからこそ、彼は自分のことを自分ですることができるし、輝けるのよ！」と言われました。それを聞いて「お互いが固定観念から自由になることが、お互いを幸せにするのだ」と、ふっと心が楽になり「ああこれで良かったんだ」と思いました。

今考えると、自分の中にあるジェンダーに気づき、その精神的な壁を乗り越えることが一番難しかったように思います。相手にはすぐ意識改革を求めるけれど、自分が一番意識改革できていなかったんだと反省しました。

家庭での男女共同参画とは？

それは、家事分担を半々にすることではなく、相手を思いやり、男女ともにジェンダーにとらわれず、お互いが気持ちよく生活することだと思います。

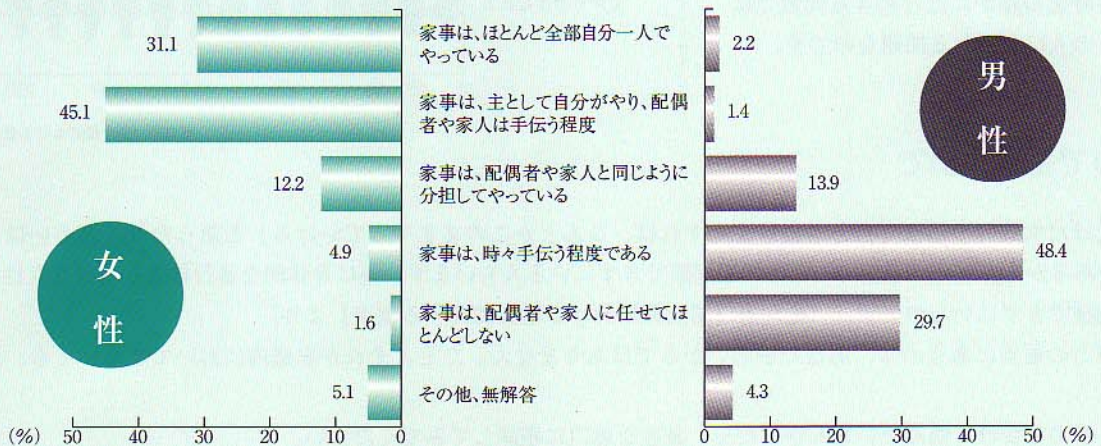
悩みながらもジェンダーの壁を乗り越えた晶子さん。かたわらで靖貴さんは「やれる方がやればいいと思っている。」とさりらとおっしゃいます。東京の大学で芸術同好会の仲間として知り会い、結婚2年4ヶ月目のお2人はきっと良いパートナーシップを発揮されて、家庭でも社会でも、男女共同参画を実践されていくのでしょうか。

家庭での男女共同参画って？



活に合わせて在
勤務、フレックス
ムが選択できるシ
テムをつくる

女性 男性
27.4% 32.5%



●「現在あなたは家事を家族とどのように分担していますか？」(結婚している人のみ回答)

家庭はあなたにとって ～女性への暴力

女性への暴力は、国際的にも重要な課題と認識されており、今年6月、ニューヨークで開かれた国連特別総会「女性2000年会議」でも、この問題は大きく取り上げられました。

一方、国内では、首相の諮問機関「男女共同参画審議会」が、今年7月31日に「女性に対する暴力に関する基本的方策について」と題した答申を提出しました。その中で、女性に対する暴力について「一刻の猶予もならない問題」と重視し、特に対応を迫られている暴力の形態のひとつとして「夫・パートナーからの暴力」を挙げています。

今回の特集では、身近な場所で起きる女性への暴力について取り上げてみました。

●20人に1人の女性が命の危険を・・・

総理府が昨年秋に行なった「男女間における暴力に関する調査」では、女性回答者の4.6%が、夫やパートナーから命の危険を感じる位の暴行を受けた経験があると回答しており、4.0%が医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた経験があると回答しています。

また、配偶者間における犯罪では、被害者が女性である割合が大変高くなっています。

●どなることも暴力です

殴ったり、蹴ったりすることだけが暴力ではありません。

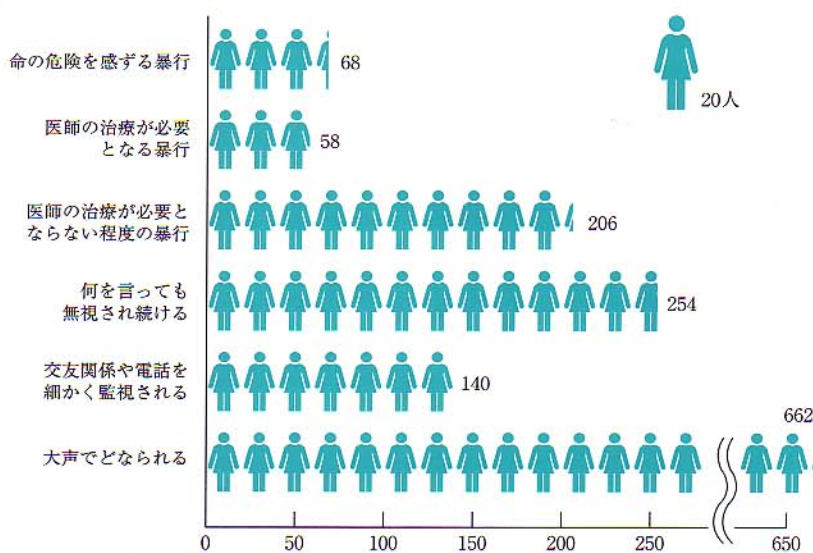
大声でどなったり、侮辱したり、無視したりすることや生活費を渡さない、友達からの電話を取りつがいないということも暴力です。

●女性への暴力は、みんなの問題

暴力をふるう夫・パートナーには特に一定のタイプはありません。被害者も同じです。

暴力は、特定の誰かにだけ起きる問題ではなく、多くの人にかかわる問題なのです。

●夫から次のようなことをされたことは？ (回答：女性1464人)



総理府「男女間における暴力に関する調査」

●ひとりで悩まないで

暴力を受けた女性の中には「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていける」と思ったり、あるいは「自分にも悪いところがあるから」という理由で、どこにも相談できずにいる人もいます。現に身体的な暴行被害を受けた女性の約4割は、どこにも相談できずにいるのです。(総理府「男女間における暴力に関する調査」より)

でも、暴力の被害にあうのは、あなたが悪いからではありません。たとえそれが家庭内においてであっても、暴力は犯罪なのです。

もしも、暴力を受けて悩んでいる人がいたら、身近な窓口相談してみてください。

安心できる場所ですか？

のない家庭を～

相談窓口

ここに紹介する窓口では、匿名の相談も受けており、個人の秘密はもちろん厳守されます。

また、窓口は相互に連携していますので、あなたの状況に応じた窓口を紹介してくれます。

女性被害110番（富山県警察本部）

TEL 0120-72-8730（フリーダイヤル）

月～金 8:30-17:15 時間外は当直者が対応

電話相談および面接相談（予約不要）

「悩みを自分1人で抱え込まずに、まず電話だけでもいいので相談してください。そうすることで、万一暴力がひどくなった時、とっさに助けを求めることができ、最悪の事態を避けることができます。」

富山県女性相談センター

TEL 421-6252

月～金 9:30-16:00

電話相談および面接相談（予約不要）

「気軽な気持ちで相談に来てみてください。まずあなたの悩みをよく聞いてからアドバイスをします。必要な場合には、一時保護も可能です。（2週間まで）自立するための応援もしますよ。」

ほんの少し勇気をだして

解決に向けてはいろいろな選択肢があります。

でも、自分の進む道を決めるのはあなた自身。

勇気をだして…。

サンフォルテ相談室

TEL 432-6611 FAX 432-6861

電話相談および面接相談

火～土 9:30～12:00 13:00～16:00

特別相談（要予約）

・医師相談 臨床心理士 第1水 13:30～15:30

産婦人科医 第3水 13:30～15:30

・弁護士相談 火または水 13:30～15:30

「きっと解決の糸口が見つかります。1人で悩まないで、まずお電話ください。」

グループ紹介

痛みを力に！ グループ女網（なづな）～ストップDVとやま

昨年度の富山市民企画講座「ストップ！女性・子どもへの暴力」を機に、講座終了後も、ドメスティックバイオレンス（DV）のない社会を目指してきた企画グループと受講生。そして今年6月、グループ女網（なづな）が誕生しました。

現在は、DV被害者のサポート活動をする人たちのネットワークをつくり、被害者へのサポートを行ったり、DVの予防・啓発活動を展開しています。ゆくゆくは、電話相談や被害女性たちの駆け込みシェルターを作りたいことを目標にしています。

「悩んでいる当事者は無力感に陥りがち。自分自身を取り戻し、自立へと歩み出すお手伝いをしたいですね。」とメンバーは語っています。

合い言葉は「痛みを力に」。

グループ女網 事務局 TEL 076-491-1081

富山市女性交流センターからのお知らせ

1 今年度下半期の講座をお知らせします。ぜひ、受講してみてください。(託児あり)

テーマ / 内容	日程	時間	担当
女性の悩み電話相談サポーター養成講座 ◆ 多様な相談に対応するための基礎知識・技術などを学ぶ	9/9・21・30 10/5・14 各土曜日 (9/21・10/5のみ木曜日)	14:00～16:00 (9/21・10/5のみ 19:00～21:00)	グループ女網 ストップDVとやま
女性のための起業支援セミナー ◆ 事業経営や‘起業’を目指す女性のための、起業に至る基礎知識や心構えなどの起業入門講座	10/4・11・14・18・25 11/1各水曜日 (10/14のみ土曜日)	19:00～20:30 (10/14のみ午後から)	富山市女性団体等 連絡協議会
しあわせに生きる 介護・健康など身近な問題をテーマにした講座	10月12日(木)	13:30～16:00	年をとらないための 生活講座
今、消費者が生産者に求めるものとは 新商品開発にあたっての着眼点について学ぶ	10月17日(火)	13:30～15:00	富山市農村女性グループ 連絡協議会
「話し合い」をデザインする 話し合いの流れを設定し、進行役としての力をつける	11/9・16・24・30 12/7 各木曜日 (10/24のみ金曜日)	9:30～11:30	自己開発応援グループ CoCo
男だって料理講座 男性にも積極的に家庭生活に携わってもらうため、男性及び女性を対象に楽しく料理をつくる	1～3月	未定	富山市女性団体等 連絡協議会
世界の料理講座 各国の料理を学び、作りながら楽しく国際交流をする	1～3月	未定	富山市女性団体等 連絡協議会

※日程については、講師の都合により変更することがあります。募集はそれぞれ「広報とやま」にて行います。
◆の講座は募集期間が終了しました。

2 法律相談・フェミニストカウンセリングのお知らせ(無料・要予約)

法律相談	フェミニストカウンセリング(グループ)	
相談員 弁護士	内容	更年期、もう一度向きあう私
相談日 第1・第3火曜日(10月以降は第1のみ)	日程	11/2, 16, 30, 12/7, 21, 1/11, 25, 2/8, 22, 3/1(全10回) 各木曜日
時間 13:30～15:30	時間	14:00～16:00
予約受付 Tel. 432-6611 (開催日の3日前までにご予約下さい)	人数	10名程度
	担当	わくわくワークグループCoCo

お問合せ先：富山市女性交流センター 〒930-0805富山市湊入船町6-7 Tel.076-433-1760 Fax.076-433-1761

編集後記

事件が起きた時、一言相談して欲しかったと第三者はいます。でも、相談はどこにしたらいいのでしょうか？

取材を通し、DVの被害者を受け入れる行政の相談窓口の立ち後れを実感しました。転ばぬ先の杖・・・自分自身の問題として真摯に考えていこうと思います。

栗根 秀子

今号からの新メンバーとして初めて編集に携わりました。

特集を通じ「家庭」では、他との比較や先入観ではなく、それぞれの生き方のために、互いに向き合い、対話を重ねることが大切なのだと感じました。

早く取材に応じ、パワーを与えてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

庄野 千晶

夫やパートナーからの暴力について取材を進める中で、被害者支援の必要性を再確認するとともに、女性への暴力そのものをなくしていかなければ、と痛感しました。

そのためには、子どものうちから、お互いを認めあうことや、感情を暴力で表現しないことの大切さを教えるべきではないでしょうか。

吉田 美紀子

“あいのかぜ”は、豊かな男女共生社会の実現に向けて、市民一人ひとりが女性問題に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3名からなる編集委員によって企画・編集された女性情報交流誌です。

Cover『海の音』

富山市ガラス工芸センター技術職員 朴 鍾海氏の作品
「波の音は水と風の協奏曲です。それを視覚化した作品です。」

編集・発行 富山市役所市民部青少年女性課
〒930-8510 富山市新桜町7-38 Tel. 076-443-2051
Fax. 076-443-2176

“あいのかぜ”へのご意見・御感想をお待ちしております。
【宛先】 〒930-8510富山市青少年女性課(住所記載不要)
【アドレス】 seisyounen-01@city.toyama.toyama.jp